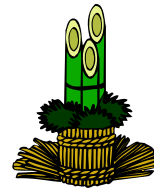


早稲田夕季のひまわり通信

2009年 新年号 No.19

迎春



新年を迎え心よりお喜び申し上げます。旧年中は温かいご声援をいただき深く感謝いたします。

昨年は全国的にも厳しいニュースに囲まれた1年でしたが、鎌倉市においては岡本マンション問題、関谷の生ごみ処理施設用地問題等、開発行政に関わる問題が山積されました。解決されない諸問題については厳しく追及し、常に市民の目線で市民の立場に立ち、議会活動に取り組んでまいります。

大隈重信は「逆風に帆を挙げよ」と鼓舞されました。早稲田夕季は2期目を目指し不転の決意で頑張る所存です。皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

- ◆建設常任委員会
- ◆総務常任委員長
- ◆一般会計決算等審査特別委員長
- ◆一般会計予算等審査特別委員会
- ◆観光ナビシステム調査特別委員会

◇ 平成20年度12月定例会 一般質問 ◇

まちづくり

質問
その1

パーク&ライドなどの交通政策が交通渋滞の緩和に結びついていない。シャトルバス「フクちゃん号」の見直し、大型観光バスの中心部への乗り入れ規制など検討できないか。

→滑川交差点での交通量調査ではパーク&ライド実施前の平成10年度の自動車流入量は42,000台、実施後の平成18年度は39,000台と減少しており、市内中心部への流入抑制に効果があると考えている。由比ガ浜駐車場から鶴岡八幡宮までの「フクちゃん号」は運行ルート等の変更を含め、バス事業者と見直しの検討をする。

意見

観光中心部にコインパーキングが急増している現状では、交通渋滞緩和につながると思えません。特に観光バスの寺社周辺への乗り入れは、渋滞要因となっています。県営由比ガ浜地下駐車場の利用時間延長を検討し、もっとパーク&ライドを推進していく必要があると考えます。

質問
その2

今小路通りの歩行者尊重道路計画は平成7年から検討され、歩行エリアの改善のためのアンケートや交通実験も実施済みです。平成18年度から市民委員による専門部会で整備計画をまとめ、10月に実施する予定であった交通社会実験が延期されている、歩行者が安全に楽しく通行できるように、できることから一歩ずつでも進めていくことが重要ではないか。

→現在は「市役所前から図書館入口」までの歩道の拡幅、平成21年度から「図書館入口から六地藏」、平成22年度から「市役所前交差点から寿福寺」までの歩行空間のカラー化、側溝の改修等を予定している。



御成小学校前は
歩道・車道を拡幅

- 白百合学園小・中・高校、早稲田大学法学部卒業
- 日本出入銀行・地元ミニコミ紙記者・自宅で学習指導
- 早稲田大学鎌倉校友会・鎌倉日仏協会・鎌倉同人会・鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会・鎌倉風致保存会・返子鎌倉の中世遺産を考える会・カトリック雪ノ下教会に所属

早稲田夕季
プロフィール

教育

少人数教育の充実、行事や授業、

部活をサポートする地域ボランティアの取り組みを

限られた予算、限られた教員定数のなかでどのような少人数教育が望ましいか、学習面、生活面における具体的な効果を十分に検証していかなければなりません。平成20年度は小学校1、2学年で35人以下の少人数学級が実施され、市独自で非常勤講師11人を配置しました。低学年においては、特に生活指導において効果的であるといわれますが、市費の非常勤講師の配置だけでは限界があることも事実です。

強く国に教育予算の拡充を要望していくと同時に、学校現場にもっと地域の人材を教育支援ボランティアとして活用する組織づくりを提案しました。腰越中学校では地域の多くの方がボランティアとして活躍しています。



質問 その3

発達障害等の特別な支援を必要とする子どもたちには、早期の支援体制が欠かせません。就学前の5歳児すこやか相談の実施状況、派遣要請が増えている学級支援員の登録制度や研修などの充実、現在5校で取り組んでいるスクールアシスタント(教員資格を持ち、支援の必要な子どもに学習指導を行う)についてはどうか。

→こんにちは赤ちゃん事業、保育園への巡回相談に加えて、今年度から実施している5歳児すこやか相談では、3園75人中支援を受けている子どもは7人、「発達に何らかの心配がある」としたのは22人でした。

意見

十分な経過観察を求めるとともに、私立幼稚園において、配慮が必要な子どもの受け入れ態勢にばらつきがあるようですが、市からの特別支援保育への補助金なども活用し、幼稚園、保育園の垣根なしに、どの子どもも育つ幼児期からの支援の充実に努めてほしいと考えます。

「観光ナビゲーションシステム整備事業に伴う 事実解明の調査特別委員会」を終えて

平成18年から2年余にわたる「観光ナビゲーションシステム整備事業に伴う事実解明の調査特別委員会」の調査報告がまとまり、最終本会議で委員長が報告しました。

国の交付金事業で総額2,000万円の「観光ナビゲーションシステム」の実証実験において、伊東正博議員が都内IT事業者を市に紹介し、当該事業を市から受託した地元企業の相談役として、平成15年2月から35カ月間700万円の報酬を得ていた問題です。同企業の相談役に就任したことについて「時期的にも、金額的にも結果として配慮に欠ける行為であった」と結論付けました。

議員が都内のIT事業者を市に紹介した点について、民主党市議団として「市民の不信感を招き、道義的な責任があることから反省が求められる」と主張しましたが、「法的にも道義的にも問題ない」という意見とに分かれ、結論は一致しませんでした。

私は2年間の特別委員会を総括して、以下のように自分の意見をまとめました。

「市議会議員たる公職に従事する者は、市の請負契約に関する特定業者の推薦、紹介などの有利な取り計らい及びその地位のもたらす影響力を利用した不当な金品の授受をしてはならず、市民の代表者としてその職務に関して不明朗であるとの疑惑を持たれるおそれのある行為をしてはならない責務があり、政治倫理的責任は大きい。」

経営的立場でなければ兼業禁止の法律に違反しないとしても、年収200万円以下の非正規雇用者が1,000万人を超える時代に、報酬の多寡は企業が決めることだから、という議論ではあまりに市民感覚とかけ離れている。

行政のチェック機能である前に、議会の自浄努力は欠かせない。常に市民の立場で行動するために、議会の政治倫理的規範を示す条例等も今後視野に入れて検討し、自ら襟を正すべきである。」

鎌倉の乱開発止まず 北鎌倉・洞門山の景観守ろう!



山ノ内西瓜ガ谷のテニスコート計画に次いで、北鎌倉駅近くの洞門山と呼ばれる丘陵が宅地開発の危機にあり、地元住民らが21,000人余の署名を添えて提出された陳情が、本会議で全会一致で採択されました。これを受けて市は「保全の方向で事業者と協議を進めていく」と方針を示しました。

9月定例会で議論された西瓜ガ谷のテニスコート計画は、台峯に連なる「都市緑地」として保全する方向で事業者と協議を進めています。住民の協力による基金も活用していく予定です。

洞門山の開発は、横須賀線沿いの円覚寺側、北鎌倉駅手前の洞門山の約996㎡に3宅地を造成する計画で、さらに2期工事も予定されています。景観破壊に加えて、土砂搬出のためには幅わずか3.4mの路地に(権兵衛踏切は2.5m)、2tダンプカーで往復6900台が必要といわれていますが、市は「許可基準に合っていれば許可をせざるを得ない。工事については許可後の工事協定で取り決めてほしい」との答弁を繰り返しました。

市マスタープランでは「鎌倉の玄関口」として位置づけ、市の「景観百選」に指定されている重要な場所です。陳情採択を受けて保全の方向性が決まったことは大変喜ばしいことですが、市民の税金を投入し全ての緑を公有地化することは不可能です。今後も市街地の緑の開発計画にどう対処していくのか、連鎖開発への対応、紛争を未然に防ぐ住民協定や地区計画等、早急な検討が必要です。